

# はぐくみ会だより

第 25 号

平成20年 4月 1日



(640×515)

所蔵作品紹介

(24)

「青山盈敷先生像」

佐藤 八郎 画

青山盈敷先生は、丹波の旧亀岡藩士に生れ、小学校教員を経て、帝室博物館に奉職される。その頃東北・中国・京阪地方に赴き、多くの美術品を視察された。明治32年4月、本校第三代校長として着任された。直後、6月には高岡市の大火が発生、創校時の校舎を被災者の収容所として多くの人を容れて急を救っている。工芸学校では、32年尚美会が誕生、35年会誌の発行、36年工芸品展覧会が始まる。37年校章・制服の制定、その他校内校外活動が盛んとなる。又、国内・海外展覧会への出品と受賞も多くなる。より高きを求めてやまない「尚美」の精神は青山先生によって形づくられたといえよう。先生は、42年発病、翌年一月逝去。享年56歳。画家の佐藤八郎先生は昭和2年から20年まで工芸系学科の素描や図案を担当された。その間、油絵の歴代校長肖像画7点と学校史絵巻物一巻が残されている。







## 卒業課題展

2月29(金)～3月6日(木)

### 「ものづくりを通して」

学校長 林 恵彰

この「卒業課題展」では、三年生が「課題研究」の授業を中心に個人又はグループでテーマを決め、一年がかりで取り組んできた作品を見ていただきました。展覧会の前に「課題研究発表会」を行います。自分たちのグループが制作してきた作品や特徴や工夫点、苦勞したことなどを、一・二年生にパソコンを駆使して熱っぽく発表していました。一度試作して、問題点をチェックし、何度も改良を加えてよりよい作品に仕上げてきたようです。

「遊び」をテーマに完成度の高い作品を作っており、見学者が十分楽しめるゲーム機を作っていました。また、漆を何度も塗り、磨きを繰り返し、手の指紋がなくなりそうになりながら頑張ってきたのに、最後の仕上げの段階で埃が一つ付着してしまい苦い思いをした人もいました。しかし、ものづくりを通して、どのように工夫をし、諦めずに粘り強く取り組んできたかが大切なのだと気づいたようです。

このように、作品の中には、生徒たちのいろいろな体験物語が埋まっています。楽しく見ていただけたと思います。

### 各科最優秀作品

#### 電子機械科



「ソーラーラジコンカーの製作」

#### 機械科



「ゴーカートの制作」

#### 建築科



「モニュメントの制作」

#### 電気科



「エアホッケーの制作」

#### デザイン科



「げた箱のデザイン」

#### 工芸科



「シルバーアクセサリー」



### 「卒業課題を終えて」

平成19年度工芸科卒業生 正和 朗実

私は、卒業課題でシルバークセサリーを制作しました。工芸科の金属工芸コースで、金工に関する多くの技術や技法を学びましたが、小学生の頃、シルバークセサリーに興味を持ったことがきっかけとなりました。その思いがあったせい、卒業課題も自身の原点であるシルバークセサリーの制作を選び、これまでに培った技術を駆使し、自分の限界に挑戦することにしました。シルバークセサリーは小物ですので短時間で制作できるというイメージがあるかもしれませんが、デザインが細かなれはなるほど時間がかかり大変でした。実習の時間だけでは足りず、自宅へ持ち帰り毎晩深夜まで制作を行いました。十分に満足はいく作品とはなりませんでしたが、三年間の集大成として思い出深い作品になったと思います。

また、卒業展では完成度の高い作品が多数見られ、中には職人並の技術で制作を行っていた人もいました。機械、電子機械、電気、建築科のグループ制作では一人ひとりが役割を果たすことで、すばらしい作品となっていました。ものづくりの面白さ、そして厳しさなど、この体験を今後に生かしていきたいと思っています。

3月13日(木)～4月3日(木)

### 「堀田 清・船木佳彦 彫刻二人展」

自由美術協会と二紀会に所属されているベテラン彫刻家2人展が桃の節句も過ぎ春めいてきた3月中旬から4月始めにかけて開催されました。

堀田氏はライフワークとして、女性の美しさを追求されており、本展には「裸婦像」10点を中心に柔らかい動きとほど良い量感、彫刻の表面に施された暖かみのある独特の色調も会場に和らかく溶けこみ魅力的でした。

対照的に、舟木氏は人物から抽象彫刻まで10点の作品を展示され、具象的表現作品から、モダンな作風まで多彩な表現と重量感ある彫刻の色相で迫力を感じました。又、二人のデッサンも飾られました。





平成19年度(二〇〇七)  
**芸術院賞に藤森氏** (昭和29年  
 図案絵画科卒)



日本芸術院は、卓越した芸術作品や芸術の進歩に功績があった人に贈られる日本芸術院賞に、本校出身の洋画家藤森兼明氏を選ばれたと3月28日発表した。受賞対象作は平成19年の第39回作品展出品「アドレーション サンピタレ」。視覚的な人物表現や、キリスト教美術と女性像を組み合わせて人の生きざまを強く感じさせた点などが評価されたという。本校では佐々木大樹、山崎寛太郎、山室百世、郷倉千穂、大角勲に次いで6人目となる快挙である。

本校の尚美展百回記念である慶賀な年度に一層輝く大輪の花を添えられた。より高きを求めてやまない「尚美」の精神を継承する我々同窓生にとって大きな誇りである。

**催事案内**

- 高岡市民美術展 招待作家作品の展示  
 4月18日(金)～5月5日(月)
- 同窓生ギャラリー  
 中村哲浩親子三代書作展  
 5月31日(土)より1階全フロアーにて開催

**常設展Ⅲ・Ⅳ期と新収蔵品展**

1月2月  
 3月9日(火)～4月4日(日)

本年度の常設展では、工芸学校が誕生する折、県から受け継いだ美術品を中心に紹介しました。

Ⅲ期は絵画、工芸(木工)、デザイン作品を主とし、木工では江戸時代の弘法師像の他、創校直後の明治32年度生徒による浮き彫り作品などを展示しました。また、同35年漆芸科を卒業された塩崎一郎氏の一学年在学当時の実習作品である臨画集も陳列し、往時の学習の方向を感じていただきました。

また、Ⅳ期は、掛軸と彫刻、さらに工芸から陶磁を展示し、掛軸では古代中国明時代の呂紀作と伝えられる「蓮花鷺図」、陶磁では江戸初期に作られた「黄瀬戸小花生」など味わい深い作品を展示しました。



新収蔵品展は、平成6年の100周年以降今日まで本校に寄贈された70点余の日本画・洋画・彫刻・工芸・書道・デザイン等を常設展に併せて前後2回展示し、見応えある作品に多くのご観覧がありました。

藤森氏受賞記事掲載のため、本年度の寄贈作品の紹介は次号にさせていただきます。

**はぐくみ会会員募集のお知らせ**

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込みは日付から一年間会員となります。

- 主な活動
- ・青井記念館美術館への協力・支援
  - ・中学生美術展(青井中美展)への支援
- 特典
- ・企画展等の案内
  - ・はぐくみ会だよりの配布
- 年会費
- 一般会員(個人) 二,〇〇〇円
  - 特別会員(企業、団体等) 一〇,〇〇〇円
- お問い合わせ・申し込み先  
 青井記念館美術館はぐくみ会事務局

**編集後記**

今年度、美術館にとって最大の事業は10月に開催した尚美展100回記念特別展でした。今日まで多くの卒業生から200余点の作品が寄贈されており、本展では1輝ける作家たちの軌跡をスローガンに、明治31年第1回卒業生から昭和57年度卒業生の作品など約120点を年代順に展示しました。

また、特別展示として日本芸術院賞受賞者、人間国宝コーナーを設け、同窓会のご支援のもと高岡市美術館、千葉県立美術館より作品をお借りし公開しました。連日多くの方が作品鑑賞に訪れ、とりわけ卒業生や生徒と保護者など家族連れが目立ちました。

さて、美術館の運営に携わっていただきました嘱託の約さんが家庭事情の為、3月で退職いたします。笑顔で来館者に接していただき、一年間ありがとうございました。(城宝記)

**編集発行**

富山県立高岡工芸高等学校  
 青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一-1-10  
 TEL (0766) 21-1630  
 FAX (0766) 21-1631

\*青井記念館のホームページを開設しております。  
<http://www.tym.ed.jp/sc350/aoi/index.htm>